

# ネットトラブルの現状と対策

総合教育センター研究調査部  
情報教育支援チーム 寺崎義人



## 本日の内容

- 1 SNSの特性
- 2 生徒のSNS利用に関するトラブル
- 3 生徒の情報モラルを育むために

(注)この資料内のデータは以下から引用した  
「情報モラルの育成」H26.1栃木県総合教育センター  
<http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/cyosa/jissenshiryou/johomorals/>

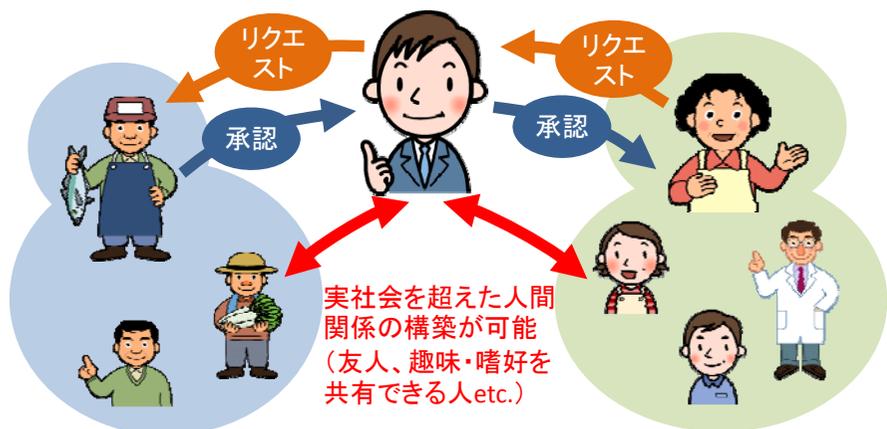
## 1 SNSの特性



## SNSの仕組み

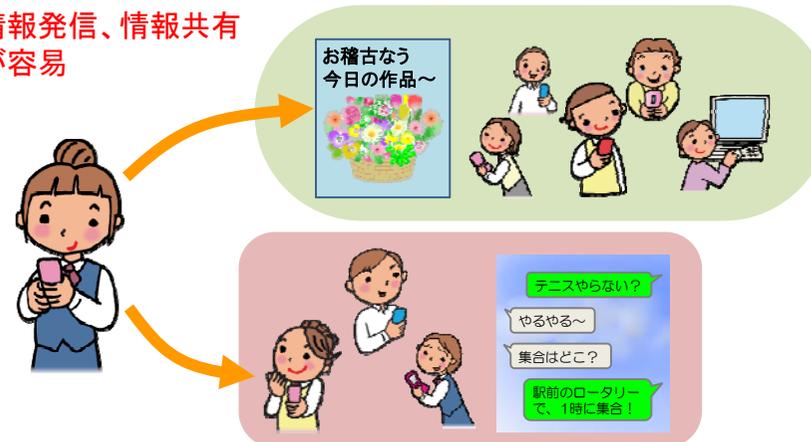
- ① 名前(ハンドルネーム)、顔写真(アバター)、プロフィール  
などを書く**自己紹介ページ**を登録
- ② 日記や写真を投稿できる**マイ掲示板**を設置  
➡ 登録した友達は、閲覧可能
- ③ **メッセージ機能**(特定の友達と1対1でやりとり)  
**グループ機能**(指定したメンバー間でやりとり)
- ④ サービス利用を習慣づけるために**ゲームやアプリ**を用意  
➡ アイテム課金  
➡ 利用者を増やし、広告媒体としての価値を高める

## SNSのメリット



## SNSのメリット

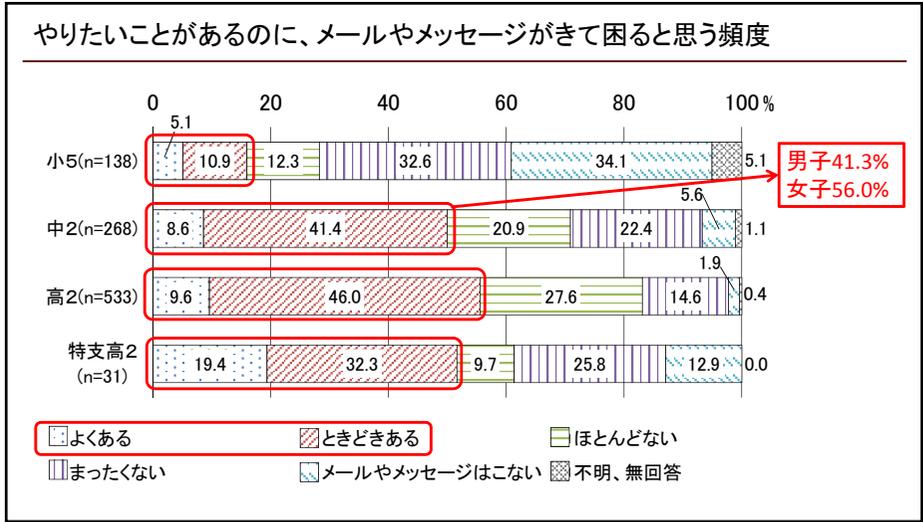
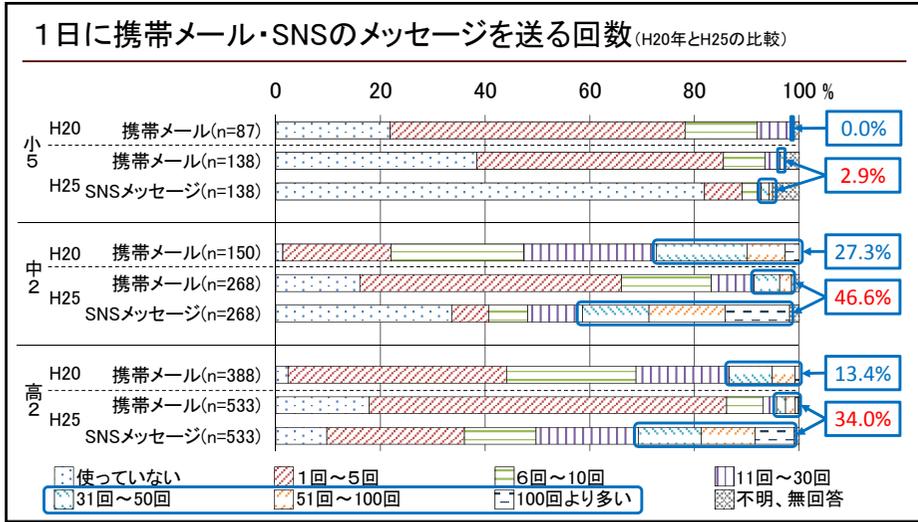
情報発信、情報共有が容易



## 2 生徒のSNS利用に関するトラブル

- (1) つながり依存
- (2) コミュニケーショントラブル
- (3) 不適切な情報発信

## (1) つながり依存



### SNSに依存する理由

日常生活が充実していない

※ 変動係数 = 標準偏差 / 平均値

	2002年	2012年
10代後半の子どもの友人数	平均 66人	125人
	変動係数 0.78	1.54

友人が多い子どもほど、自己肯定感が高い

付き合う相手を選択できる自由  
⇕  
相手から自分が選択してもらえないリスク

友人数の大小で、人間としての価値が測られるかのような意識

リアルな関係を維持するためにSNSに依存する

(教職研修2014.8)

- ### ムシしてんじゃねーよ
- 夏休み、長期のアルバイト中にスマートフォンを忘れたため、チャットに参加できなかった。
  - 帰宅し、チャットをチェックすると、返信しない自分への悪口であふれていた。
  - 2学期に登校すると、机の上に花瓶が置いてあった。電話も着信拒否された。
  - ネット掲示板に、自分の名前や高校、クラスまでが公開されていた。
- 2013.11.20 朝日新聞

## (2) コミュニケーショントラブル

ゆき, ひとみ (3) かわいくない

ゆき  
今日買いすぎた~ 20:22

既読 20:26 楽しかったね(〇)

ひとみ  
2人で出かけたんだあ  
何買ったの? 20:28

既読 20:30 

既読 20:30 ゆきに選んでもらったぬいぐるみ

既読 20:31 かわいくない

ゆき, ひとみ (3) かわいくない?

ゆき  
今日買いすぎた~ 20:22

既読 20:26 楽しかったね(〇)

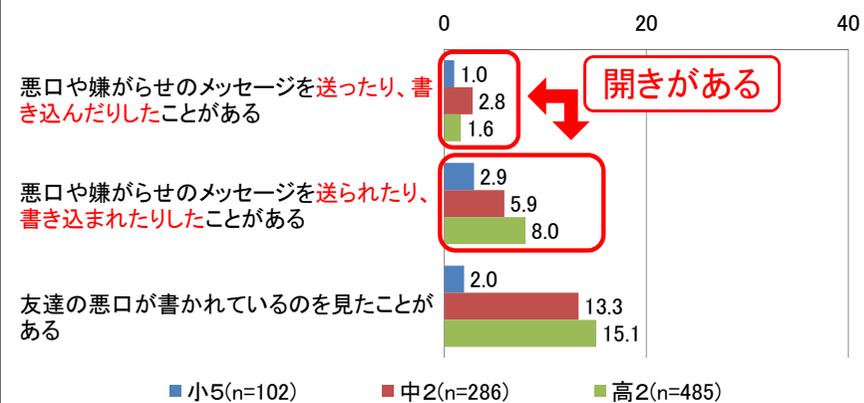
ひとみ  
2人で出かけたんだあ  
何買ったの? 20:28

既読 20:30 

既読 20:30 ゆきに選んでもらったぬいぐるみ

既読 20:31 かわいくない?

### SNS利用時の被害経験・加害経験



### 「言葉の行き違い」の要因

思いが  
伝わりにくい

対面	電話	メール SNS
言葉 声色 表情 しぐさ	言葉 声色	文字 絵文字
伝わりやすい	↔	伝わりにくい
面倒	↔	手軽

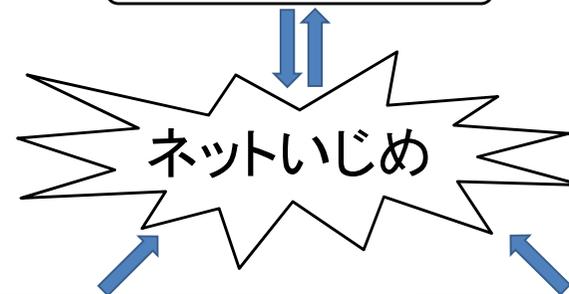
コミュニケーションの手段と特徴



CLIP ART FACTORY

### ネットいじめのプロセス

現実世界のいじめ



言葉の行き違い

つながり依存

### (3) 不適切な情報発信

### 情報発信の気持ちと実際

- ツイートする気持ちは...  
→ 「うちら」の世界で話しているつもり
- 実際には  
→ 「うちら」の外側に  
ふるまいをチェックする人がいる

### 3 生徒の情報モラルを育むために

- (1) 計画的な教育
- (2) 保護者との連携



### (1) 計画的な教育



#### 学習指導要領解説における情報モラル

##### 情報モラルとは

情報社会で適正な活動を行うための基になる  
考え方と態度

##### 具体的目標

- ① 他者への影響を考え、人権、知的財産権など自他の権利を尊重し情報社会での行動に責任をもつこと
- ② 危険回避など情報を正しく安全に利用できること
- ③ コンピュータなどの情報機器の使用による健康とのかかわりを理解すること

高等学校学習指導要領解説（総則）第3章5(10)

#### 情報モラル教育の構造

##### 心を磨く

心に関係し、価値判断の力を育成する

法の理解と  
遵守

情報社会の  
倫理

##### 知恵を磨く

安全を守る知恵と技術を習得する

安全への  
知恵

情報  
セキュリティ

判断の基盤となる知識の習得

最終的な目標：社会の大切なネットワークをみんなで育てる態度の育成

**「公共的なネットワーク社会の構築」**

## モデルカリキュラム

1. 情報社会の倫理

2. 法の理解と遵守

3. 安全への知恵

4. 情報セキュリティ

5. 公共的なネットワーク社会の構築

学 年	L.1 (小学校1～2年)	L.2 (小学校3～4年)	L.3 (小学校5～6年)	L.4 (中学校)	L.5 (高等学校)
情報社会の倫理	a1-2 親戚や友人や地域社会での行動に責任を持つ	a2-1 親戚や友人や地域社会での行動に責任を持つ	a3-1 親戚や友人や地域社会での行動に責任を持つ	a4-5 情報社会の中で責任ある行動をとる	a5-1 情報社会の中で責任ある行動をとる
法の理解と遵守	b1-1 親戚や友人や地域社会での行動に責任を持つ	b2-1 親戚や友人や地域社会での行動に責任を持つ	b3-1 親戚や友人や地域社会での行動に責任を持つ	b4-1 親戚や友人や地域社会での行動に責任を持つ	b5-1 親戚や友人や地域社会での行動に責任を持つ
安全への知恵	c1-1 親戚や友人や地域社会での行動に責任を持つ	c2-1 親戚や友人や地域社会での行動に責任を持つ	c3-1 親戚や友人や地域社会での行動に責任を持つ	c4-1 親戚や友人や地域社会での行動に責任を持つ	c5-1 親戚や友人や地域社会での行動に責任を持つ
情報セキュリティ	d1-1 親戚や友人や地域社会での行動に責任を持つ	d2-1 親戚や友人や地域社会での行動に責任を持つ	d3-1 親戚や友人や地域社会での行動に責任を持つ	d4-1 親戚や友人や地域社会での行動に責任を持つ	d5-1 親戚や友人や地域社会での行動に責任を持つ
公共的なネットワーク社会の構築	e1-1 親戚や友人や地域社会での行動に責任を持つ	e2-1 親戚や友人や地域社会での行動に責任を持つ	e3-1 親戚や友人や地域社会での行動に責任を持つ	e4-1 親戚や友人や地域社会での行動に責任を持つ	e5-1 親戚や友人や地域社会での行動に責任を持つ

「情報モラル」指導実践キックオフガイド より

## 情報モラルを身に付けさせる学習活動

- ネットワークを利用する上での責任について **考えさせる**
- ルールや法律の内容を理解し違法な行為による個人や社会への影響について **考えさせる**
- 知的財産権などの情報に関する権利を理解し適切な行動について **考えさせる**
- トラブルに遭遇したときの様々な解決方法について **考えさせる**
- 基礎的な情報セキュリティの重要性とその具体的な対策について **考えさせる**
- 健康を害するような行動について **考えさせる**

**「考えさせる」  
学習活動**

高等学校学習指導要領解説（総則）第3章5（10）

## 学習活動の例（SNSの心得）

映像で見る情報セキュリティ(IPA)

### 学習活動、指導上の留意点（例）

- SNSの利用状況やSNS利用時の経験を共有する。
  - ・ SNSの利用状況、よい点・問題点を生徒に問いかける。
- 動画を視聴し、グループで話し合う。
  - ・ 3分33秒までの動画で、「このあとストーリーがどうなるか」話し合わせる。
  - ・ 4分50秒までの動画で、以下の点について話し合わせる。
    - 「なぜ、写真が広まってしまったのか」「写真は回収できるか」
    - 「このあと(数日、数ヶ月、数年後…)、主人公(英子)はどうなるか」
  - ・ 動画を最後まで視聴し、以下の点について話し合わせる。
    - 「SNSを利用する場合、これからどのようなことに注意して、利用していくべきか」
    - 「情報社会において、どのように振る舞うべきか」
- ホームルーム全体でまとめを共有する。
- 教師のまとめ。
  - ・ 情報社会の一員として、社会的な責任があることを意識させる。

## 出前講座

安心ネットづくり促進協議会

検索

**LINE** みんなで考える情報モラルとコミュニケーション  
企業・団体：LINE株式会社  
小学生(高学年) 中学生 高校生 教職員 保護者(中学) 保護者(高校)

**大学生が教えるネットリテラシー講座**  
企業・団体：株式会社ガイアックス  
高校生 教職員

**事例に学ぶ情報モラル～正しく怖がるインターネット～**  
企業・団体：GREE株式会社  
小学生(高学年) 中学生 高校生 教職員 保護者(小学校低学年)

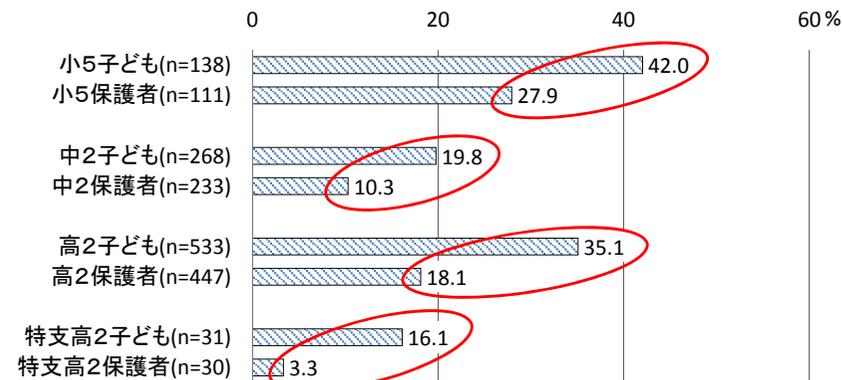
1億人のネットまな  
もっぐりッドネット

講師派遣料や交通費のかからない  
14の講座が紹介  
されている

## (2) 保護者との連携

## ネット利用に関する保護者と子どもの意識の違い

### 「携帯電話の利用のルールを決めていない」と思っている割合



## 保護者との連携と啓発

### 1 学校の方針を伝え、協力を要請する

### 2 保護者は何をすべきか伝える

- 例
- ① 本当に情報機器が必要かどうか、一緒に考える
  - ② ルールを一緒に考えて、一緒に決める
  - ③ 常に見守り、定期的にチェックする

「多くの保護者が集まる場」  
 で  
 「繰り返し」  
 啓発する

### 3 保護者自身の情報モラルを高めてもらう

## ルールの例

### ○依存にならないために

- ・〇時以降は携帯電話の電源を切る
- ・1日〇時間までにする
- ・携帯電話は自分の部屋に持ち込まない
- ・食事中は使用しない

### ○コミュニケーショントラブルをおこさないために

- ・自分が書かれてイヤだと思わない
- ・ネットへの書き込みは「一生消せない」ことを常に考える
- ・すぐに返事が返ってこなくてもイライラしない

### ○自分の身を守るために

- ・携帯電話に登録した友人・知人以外はネット上でやりとりしない
- ・ネット上で個人情報は公開しない
- ・困ったり、分からないことがあったりしたら大人に相談する

子どもにルールを認識させるために

1. 文章化する
2. 紙に書く
3. 見えるところに貼っておく
4. 定期的に確認する

「情報化社会の新たな問題を考えるための教材」(文部科学省)より

おわりに



職員と生徒会が一体となった取組

- ポスター作成→携帯電話・SNSの利用についての呼びかけ
- 終業式で携帯電話の利用について呼びかけ
- 生徒・保護者にアンケートを実施
- 修業式・新入生オリエンテーションにおいて、寸劇を通じて適切な携帯電話の利用について啓発
- 保護者向け啓発資料の作成・配付 等

生徒一人一人が「**自律した使い方**」  
ができるような取組